

田んぼ(田圃)の虫たち(その2)

「せせらぎ公園」の田んぼには「シオカラトンボ」や「アブ」、それを食べようとする「カマキリ」がいました。稲と同じ「緑色」で判りにくい、小さな「ツユムシ」や、稲の葉の裏で「かくれんぼ」する「コバネイナゴ」にも出逢いました。

でも、とても目立つ、きれいな昆虫にも出逢ったのです。



田んぼに生えている雑草にも小さな花が咲きました。その「小さな花」には、やはりとても「小さなチョウ」が止まっていた。見逃してしまいそうです。



近寄ってみると、どうやら「ベニシジミ」のようです。私はとりたてて「蝶ファン」ではありませんが、「蝶ファン」の方には、最も美しいチョウの部類に入るそうです。

美しいチョウを見つけると、花に止まって何をしているか、その生態をのぞいてみたくなります。ただ、あまりにも小さいので、比較的大きな「アゲハチョウ」の仲間のように、ちゃんと捕らえきれるか自信がありません。



でも、この「ベニシジミ」は「吸蜜」に夢中になっているせいか、近寄っても逃げません。

よく見ると、どのチョウでも同じように、口がストロー状になっており、それをゼンマイ状に丸めて、花の蜜を探している姿が見えたのです。こんな姿が見えると、なんとかして「吸蜜」の様子を探ってみたくになります。

それにしても、「花」はあまりにも小さく、数 mm 程度のこんな小さな花にどれほどの「蜜」があるのかと思ってしまう。



しばらくは、この「ベニシジミ」は、安定した足場を固めていました。

すると狙いを定めたかのように、ゼンマイ状に丸めたストローをスルスルと伸ばし、花の真ん中に差し込んだのです。(花の中央に、針のように射込まれている黒い線状のモノが、チョウの「口」です。)



ところが、どうも落ち着きません。

この「ベニシジミ」は身体の向きを変え、横方向に捕まり直し、あらためて口のストローを花に射込みました。よく見ると、たしかに花の芯にキチンとストローが当たっているように見えます。



しかし、それでも具合がよろしくないようです。

なにやら盛んにストローを動かしているのです。

いったい、何をしているのかと、こちらもいやがおうでも興味が高まります。



この時のストローの動かし方を見るため、ちょっと拡大してみましょう。
実はこのストローが大きく曲がるのです。



ストローが大きく曲がる瞬間を、なんとか撮影できました。
この曲がっている場所を「屈折点」と言います。
チョウはこの「屈折点」を曲げて、花の蜜のありどころを探すのです。

最初の写真に見たように、咲いても数 mm という小さな花に付いた
これまた小さな「ベニシジミ」・・・10 数 mm というこんな小さなチョウでも、
こんな風にして「吸蜜」する姿を捕らえて、私も夢中になってしまいました。



この「ベニシジミ」、「蜜」を吸い終えたようで、ストローを再びクルクルと丸め、飛び立つ用意をしました。

丸めた姿もまた可愛らしいものです。

この茎には、まだ1輪、2輪しか咲いていないので、他の花に向かうようです。

さて、ここで「みんなのたんぼ」の先週末の生育状況を見てみましょう。



ちょっと見にくいのですが、ここに写っているのは、向かって左側半分の「たんぼ」です。

「出穂(しゅっすい)」がそれなりに進んでいます。



一方、向かって右半分は陽当たりが悪いせいか、「出穂」しているものはまばらです。



稲の間には雑草が生え始めています。
稲の雑草として代表的な「コナギ」のようです。

「出穂」状況を見てみましょう。



これは「出穂」したばかりで、まだ「稲の花」はわずかしか咲いていません。



この穂は、ほとんど「開花」を済ませ、白い「雄しべ」が「エイ」からはみ出ています。

「雌しべ」の受粉が済めば、もう「雄しべ」には用がないので、家の外に

追い出されてしまうのです。

やがて、この「雄しべ」は風に吹き飛ばされて消えていく運命です。



「雄しべ」が吹き飛んだ稲は、結実し、実が膨らんでいきます。
穂が重くなって垂れているものが、ごく一部ですが出始めました。

実は8月中旬に、「稲の開花」の姿を撮影して欲しいと要請されていたのですが、お盆休みの時期は旅行で出掛けていて、開花のピーク時に「田んぼ」に行けませんでした。

でも、「出穂」していないものや、「出穂」していても「開花」していないものも多々あり、なんとか「開花」の姿が見られないかと探してみました。



すると、わずか、1粒、2粒「開花」している姿を見つけることが出来ました。
「エイ」がぱっくり開いて、中から「雄しべ」が飛び出しています。



さらに「開花」している穂がないかと探してみると、こんなに沢山「開花」している穂に出逢いました。

白い「雄しべ」が、とてもさわやかで、きれいですね。
このとき見られた「開花」はわずかにこれだけでした。



「エイ」が開いているのは、受粉を待っている1時間、2時間程度で、
「雌しべ」が受粉してしまえば、「エイ」は閉じてしまいます。
この「エイ」はお米の実が育つまで、保護する役割(モミを覆う「もみ殻」)
を担うこととなります。

ところが、この「もみ殻」は、「エイ」が成長し固くなるまで少し時間が掛かります。

「エイ」がまだ若く、柔らかい時は保護する力は弱いのです。

そこで、「出穂」したものの、まだ「稲の花」が咲いていない状態の、「エイ」がごく柔らかい状態の稲を探すことにしました。



やっと一本、「出穂」というか、「出穂しかかり」の稲を見つけました。



この「出穂」部分を拡大して見ると、陽の光を受けて「エイ」の中で、「雄しべ」が縮こまって収まっているのが判ります。

「開花」してしまえば、「雄しべ」は「エイ」の外に追い出されてしまいますから、これがまだ「開花前」であることが判ります。



そして、ちょっと角度を変えてみると、なにやら白く傷んでいる状況も見えてきました。



なんと、米粒サイズの小さな「ウンカ」と思われる虫が取り付いていたのです。

「ウンカ」は、お米の代表的な害虫です。

「ウンカ」の付いている下の粒を見てみると、「エイ」が破られて、穴が空き、穴の周りが白化しているのが判ります。

「ウンカ」恐るべしですね。

「ウンカ」の被害がどんなものであるか、具体的に確認も出来ました。

「田んぼ」で昆虫探しをしていたら、とんでもないものを見つけしまいました。
でも、この「ウンカ」も、「田んぼ」の代表的な生きものと言えるでしょう。

「稲」は十分育つまでにいろいろな試練があります。
「虫」たちからだけでなく、「いもち病」などの「病気」にもかかります。
実ったら実ったで、スズメやカラスなど「野鳥」からも被害に遭います。
お米は人間にとって魅力的な食べ物ですが、他の生きものたちにとっても
それほど魅力的なのでしょう。

「ウンカ」を見つけた場所から目を離し、周りを見渡すと・・・



ところどころに、モミがかなり白くなり、虫たちにやられているところがありました。
殺虫剤や農薬を蒔かないので、それはそれで仕方がないのだと思います。

「捕虫網」で虫を捕まえなくても、「双眼鏡」で探したり、「虫めがね」で
のぞいてみると見える、虫たちの姿があります。
「虫かご」に入れてのぞく世界と違って、自然の中でありのままに生活する
生きものの世界も興味深いものです。
ただ、子どもたちは、「虫」とみれば捕まえたくてしょうがないので、
こういう観察が出来ないのが残念です。

そして、もうひとつ、「イナゴ」は「稲子」、「虫めがね」は
「ムシメガネ」でなく「虫を見るめがね」という日本語が、
生きた言葉で無くなっているのが残念です。

日本語の「言葉」と「実態」とが「かい離」し、「イナゴ」といっても「稲」との関連が思い浮かばず、「虫めがね」といっても、それが「虫を見るもの」という発想が湧かなくなって、そんなことに思いも付かない時代になってきているようです。

「鉄腕アトム」の手塚治虫は、虫たちが大好きでしたが、いつも「虫めがね」を持ち歩いて、捕まえる前にそっと近づき、「虫めがね」で飽きるほどじっと観察したそうです。

暑い日がまだまだ続きそうですが、お互いがんばりましょう。

(当面の日程)

- 2012/9/2(日)「僕らは昆虫調査隊」(おおたく環境探検隊) 10:00
- 2012/9/3(月)「呑川講座」案内チラシ配布準備 9:30 区役所 6 階
- 2012/9/5(水) エコフェスタ準備打ち合わせ 15:30 池上小学校
- 2012/9/6(木) 呑川ネット・定例会 10:00 生活センター講座室
- 2012/9/13(木) 呑川散策ガイド作成委員会(場所未定・毎月第 2 木曜)

*連続 5 回の「呑川講座」が予定されています。

- (9/27 木)「呑川の概要・六郷用水との関わり」「呑川の歴史」
 - (10/6 土)「呑川ウォーク(上流部)」緑が丘から稲荷橋(池上)まで
 - (10/11 木)「呑川の水・水循環」「呑川の生きもの」
 - (10/20 土)「呑川ウォーク(下流部)」稲荷橋(池上)から河口まで
 - (10/25 木)「川と街づくり」(仮題)首都大学東京 菊地俊夫教授
- 木曜日は 19:00 - 21:00 会場 大田消費者生活センター 2 階講座室
土曜日は 9:30 現地集合で呑川ウォーキング(解散 12:00 頃予定)
主催: パルシステム東京 共催: 呑川ネット 参加費(保険料・資料代)500 円

申込先: (メール) hishinuma@m9.dion.ne.jp 住所・氏名・年齢・TEL 等明記

どうぞご参加ください。

-----photo essay by-----

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com
